

「付着」という概念 —— 中国語の“在+L+V”形式と “V+在+L”形式を例として ——

丸尾 誠

0. はじめに

“在+L+V” “V+在+L” 両形式 (L: 場所を表す語句、V: 動詞) で使用可能な V として朱德熙 1990: 7 は“写、插、躺、漂、坐、挂、存、晾 ……”などを挙げ、その共通の意味特徴を [+付着] としている。ここでは自動詞と他動詞が混在しており、「付着するもの」が異なる。本稿では両形式で使用可能な動詞をさらに広く取り上げ、その「付着」という意味特徴が如何に統語的に反映されるのかということについて考察する。

1. 「付着」について

付着とは、その過程に着目すれば動態的に、状態に着目すれば静態的に捉えられる。自動詞、他動詞を“在+L+V” “V+在+L” 両形式で用いた例を挙げる。

- (1) a. 在沙发上坐下 — 坐在沙发上 【動態的】
[ソファに座る] [左に同じ]
- b. 在沙发上坐着 — 坐在沙发上 【静態的】
[ソファに座っている] [左に同じ]
- (2) a. 在墙上挂画儿 — 把画儿挂在墙上 【動態的】
[壁に絵を掛ける] [左に同じ]
- b. 画儿在墙上挂着 — 画儿挂在墙上 【静態的】
[絵が壁に掛かっている] [左に同じ]

動態とは行為を中心とした記述であり、主体 (S) あるいは対象 (O) の着点 (L) に向けた動きが表されることになる。一方で、動きを前提とした衝突を表す“碰、踢、砸、撞 ……”などの V を用いた場合には“在+L+V” の形では成立しない (「*」は非文であることを表す)。

(3) a. *在桌子上碰 — 碰在桌子上

[机の角にぶつける]

b. *在腿上踢了 — 踢在腿上了

[(ボールなどが) 足に当たった]

c. *在脚上砸了 — 砸在脚上了

[足にぶつけた]

衝突とはまさに「瞬間的な接触 (付着)」の時点を捉えたものであり (その意味で (3 a-c) における“V 在”と“V 到”はほぼ同義となる)、通常その一瞬の出来事の後には「離脱」が続く。これは“在桌子上放”の類のように行為終了後に O が S の支配下から離れ、L にそのまま存在するものとは異なる。

一方、ここでいう静態とは存在義のことであり、S・O の存在位置が表される。このため、働きかけを表す動詞を用いた場合には (2 b) のように対象を主語に据えたモノ中心の記述となる。以下、“在+L+V”“V+在+L”両形式で使用可能な動詞について、個別に考察する。

2. 様態移動動詞

移動動詞のうち様態を表すものは、両形式で表現可能であり、かつその表す意味が基本的に変わらない。

(4) a. 在大路上走 — 走在大路上

[大通りを歩く] [左に同じ]

b. 在路上跑 — 跑在路上

[道を走る] [左に同じ]

c. 在空中飞 — 飞在空中

[空中を飛ぶ] [左に同じ]

ここでは移動を引き起こす動作主体の存在位置が表されている。

3. 姿勢を表す動詞

姿勢を表す動詞として“坐、站、躺、跪、蹲、趴、靠 [寄りかかる] ……”などが挙げられる。これらに“住、站、睡 ……”などを加えて、「存在の状態」を表す動詞としてより広い概念で捉えることもできる。荒川 1980 は動詞“躺、坐、蹲、趴、放、站、住”が単独で使えないことから、これらを「状態動詞」とよび、これをさらに「静態動詞」と言い換えた荒川 1981 では「静態動詞は静

態を表わすのが主で、その静態に移る変化（過程）を積極的には表わさない」（7頁）（傍点は引用者）と述べている。ここでは「姿勢を表す動詞」を用いたケースについて考える。

3. 1. “在+L+V”

SのLへの存在が背景化され、Vで表される行為が中心に据えられた“在+L+V”形式において、通常Vのみで用いられた場合はbound formであり（例：?? 他在椅子上坐。）¹、Vに伴われた後続要素によって静態・動態が表されるようになる。

(5) 在椅子上坐着

[椅子に座っている]

姿勢を表す動詞自体に終了限界点が内在しているため、“在+L+V”形式で表されるのは進行義ではない。この場合、通常統語的に持続のマーカ―“着”を伴って静態義を表す。次に動態義についてみる。

(6) a. 他在窗前的藤椅上坐下去。《巴金「家」》

[彼は窓の前の藤椅子に座った]

b. 在床上坐起来

[ベッドで体を起こす]

ここでは方向動詞があることによって[+方向性]となっているが、それはあくまで垂直方向を軸にしたその場での（上下の）動きであるため（基準点Lとの関係でみると範囲内での動きである）、“在+L+V”形式での表現が可能となっている。

3. 2. “V+在+L”

姿勢を表す動詞についてはその動作が確かにSの該当部分に関わる位置変化を引き起こしてはいるものの、それは瞬間的に動作完了後の状態の持続へと移り変わるものであり、そこでは移動距離、移動時間などは問題となっていない。しかし、こうした動詞を用いた表現はプロトタイプの移動というものからは大きく乖離してはいるものの着点指向であり、形式的にも直接場所目的語と結び付いた“VL”の形をとれることから（例：坐椅子上、躺床上）、[+方向性]を伴った移動に準じる動きであるということはできよう。

命令文ではその動作性が示されるが、描写文においては動態義・静態義の区

分は他の要素（例えば副詞的成分や“了”の付加など）によって示されうる。

(7)

| | | | | |
|---------|--------------------|-----------|---------|--|
| 動作主体 | “V+在+L” | | | |
| 二人称 命令文 | 你坐在床上。 | 【変化】 | 未然の事態 | |
| | [ベッドに座りなさい] | | | |
| 三人称 描写文 | 他 <u>一下子</u> 坐在床上。 | 【変化】 | } 已然の事態 | |
| | [彼は急にベッドに座った] | | | |
| | 他坐在床上 <u>了</u> 。 | 【変化 → 状態】 | | |
| | [彼はベッドに座った] | | | |
| | 他坐在床上(呢)。 | 【状態】 | | |
| | [彼はベッドに座っている] | | | |

語気詞“了”によって表される変化とは、着点への移動を伴った姿勢の変化であり、これは動態的に捉えられる。中川 1990 は動詞の意味する動作を「発生－持続－帰着－（結果の）存続」の4つの段階に分けた上で、“他在桌子上跳”の“跳”がカバーするのは『発生－持続』のみであるのに対して、“在椅子上坐”が『帰着－存続』に読めるのは、「坐」が『発生』地点と『帰着』点とが極めて接近して行われる動詞であるからに過ぎなく、実際は『発生－持続』しかカバーしていないのではないか（231 頁）と述べている。“坐”の表す移動は瞬時に完結して結果の存続へと移り変わるため、話者の認識においては静態義までもが含意されうる。

(8)

その結果として

他坐在床上了。 【動態】座った（→【静態】座っている）

[彼はベッドに座った]

この場合“已经”などが用いられることにより、その静態義が顕在化されることになる。

(9) 他已经坐在床上了。 【静態】

[彼はすでにベッドに座っている]

眼前で起こった一連の出来事を描写する場合には、動態・静態ともに表しうる。そのため、動詞自体では移動を前提としないようなものについても、両義は存在しうる。

(10) 他站在那儿了。 【動態】 (Lまで移動して) そこに立った

【静態】 そこに立っている

つまり“V在L”形式の表す二義性とは「Lへの到達」について述べているのか、「到達後の存在」について述べているのかということである。例えば李临定 1986b: 25 の次の例 (11a/b) ではコンテキストによりそれが明らかとなっている。

- (11) a. 一个下午,他都坐在板凳上帮我干活 【静態義】
 [午後ずっと、彼は腰掛に座って私の仕事を手伝ってくれた]
- b. 说完话,他便坐在(了)板凳上帮我干活 【動態義】
 [言い終わると、彼は腰掛に腰を下ろして私の仕事を手伝ってくれた]
- ここでは“坐”のもつ動態義・静態義が反映されている。

4. 働きかけを表す動詞

“在+L+V” “V+在+L” 両形式をとりうる他動詞のグループの代表的なものとしては、“放、挂、贴 ……”などの使役移動的な動詞が挙げられる。これらは、Sの行為がOの移動を引き起こす他動詞であり、Oの性格およびLとの関係において、大きく次のようなパターンに区分できる。

1. 物理的移動を伴うもの

① Oは「受事目的語」

例：把(一幅)画挂在墙上 — 在墙上挂一幅画
 [絵を壁に掛ける] [左に同じ]

Vの例

放、挂、贴、摆、藏 [隠す]、搁、栽、种、盖、晾、摊、铺、吊、撒、存、盛、扔、堆、埋、靠、插、架、罩、塞、涂、绑、洒、钉、安、垫、设、搭 [引っかける]、灌(水)、安装、陈列 ……

② Oは「受事目的語」(Lは一般に身体部位)

例：把孩子抱在怀里 — 孩子在怀里抱着
 [子供を懐に抱く] [子供は懐に抱いている]

Vの例

背、扛、抱、搂、拎、戴、穿、叨、夹、披 [はおる]、捧 [抱える] ……

2. 移動を伴わないもの

③ Oは「結果目的語」

例：把字写在黑板上 — 在黑板上写字

[字を黑板に書く] [左に同じ]

Vの例

写、画、刻、縫、记、绣、印、抄、盖(房子)、建、织、发表、搭(房子) ……

④ Oは「受事目的語」

例：把鱼养在池子里 — 在池子里养鱼

[魚を池に飼う] [左に同じ]

把肉煮在锅里 — 在锅里煮肉

[肉を鍋の中で煮る] [左に同じ]

Vの例

养、煮、熬、烤、烧、煎、蒸、焖、酱、握、捏、关、锁、保存 ……

以下、それぞれのVの意味特徴の統語構造への反映について、Sの行為からOの存在（状態）への段階の移行に伴うヴォイスの転換という観点から、個別に考察する。

4. 1. “放、挂、贴 …”類（①類）

Oの移動を伴い、Lが着点を表す①および②類はその対象の移動方向が対称的であることから、概念的には「放出義」対「獲得義」として捉えることができる。①類の行為はLとの接触の瞬間に実現・完了する。そして“V+在+L”の形では動作しか表しえない“放”についても、語気詞“了”を付加することにより状態を表すようになる²。

(12) a. 放在哪儿 〈動作〉

[どこに置くの]

b. 放在哪儿了 〈完了 → 状態〉

[どこに置いてあるの]

また、他動詞的表現における「動態から静態へ」の転換については、Oの変化に着目したヴォイス的側面が関わっている。すなわち、形態論のレベルにお

いて自動詞・他動詞の区別を有していない中国語では、構文（語順）の違いが、この意味の転換をもたらす。例えば“V+在+L”の形を用いて、次のように両義を表しうる。

(13) a. 你把那个东西放在哪儿了? 【動態義】

[あの品物をどこに置きましたか]

b. 那个东西放在哪儿了? 【静態義】

[あの品物はどこに置いてあるのですか]

ここでの動態義とはSの行為、およびそれに付随するOの移動を表し、静態義とはOの存在を表す。①類では行為によるOのLへの到達後、OはSの支配下から離れてLに存在することになる。そしてOを主体として表現することにより、モノの状態に焦点が当たることになる。これは例えば次のような構図で表されるものである。

(14) 【動作】 他正在开门。 … Sの行為

[彼はちょうどドアを開けている]

【状態】 门开着呢。 … Oの状態（モノ中心の記述）

[ドアが開いている]

①類の行為の遂行はOのLへの付着の瞬間であり、その意味で着点への到達は保証される。そして動作の完了とともにOはSの支配下から離れ（Oは[一意志]）、以後焦点はOの存在段階へと移り変わる。「Sの行為からOの状態へ」という意味の転換は統語的には上でみたように「“把OV在L”から“OV在L”へ」という変換によって表されるものの、Oが主体となった後者の形についても、次の例のように命令文として使用され動作主の意志が前景化（foregrounding）されるときには、やはり動態義となる。

(15) a. 镜子挂在墙上! 【変化】(→ 到)

[鏡を壁に掛けなさい]

b. 镜子挂在墙上(呢)。 【状態】(→ *到)

[鏡は壁に掛けてある]

(15a) は話者の相手に対する意志を表しており、“挂到”と同義であるのに対し、(15b) の描写文ではSは背景化しており、“挂到”は成立しない。

4. 2. “抱、搂、扛 …” 類 (②類)

②類の動詞を用いた場合、動作主体(S)を主語にたてた“S+在+L(身体

部位) +V+O”の形はやや不自然となる。こうした場合、通常“在”は現れない。

- (16) a. ?她在怀里抱着孩子 → 她怀里抱着孩子
[彼女は懷に子供を抱いている]
b. ?他在肩上扛着麻袋 → 他肩上扛着麻袋
[彼は肩に麻袋を担いでいる]

“在+L+V”の形で用いられるのは、Oを主体として文頭においた場合である。

- (16) ' a. 孩子在怀里抱着
[子供は懷に抱いている]
b. 麻袋在肩上扛着
[麻袋は肩に担いでいる]

つまり、Sが背景化され、Oの存在状態に焦点が当たっているこの形は、上記第4.1節でみた場合と同様である。ただし、①類の行為がLとの接触の瞬間に実現・完了するのに対し、②類ではLが動作主体の身体の一部であるが故に、Oの存在はSの(意識的な)行為の持続として認識される。次の例も同様に解釈できる。

- (17) 含在嘴里 — 在嘴里含着
[口に含んでいる]

4. 3. “写、画、刻 …”類 (③類)

「到達から存在へ」の過程をOのLへの出現として捉えると、①、②類のようなモノの実移動を伴うケースに対して、Oが「結果目的語」を表す③類の場合には、物理的な移動ではなく、SによるLへの働きかけを表すことになる。

- (18) a. 在黑板上写字
[黑板に字を書く]
b. 把字写在黑板上
[同上]

ここでは、LはOが出現する空間位置となっている。

①類の“貼”“摆”などについてはOを主語とした場合、“在+L+V”“V+在+L”両形式による表現が成立した。

- (19) a. 画儿在墙上贴着呢。
[絵が壁に貼ってある]

b. 画儿贴在墙上呢。

[同上]

(20) a. 菜在桌子上摆着呢。

[料理が机の上に並べてある]

b. 菜摆在桌子上呢。

[同上]

これに対し、③類ではフリーコンテキストの文としてはすわりの悪いものが多い。

(21) a. ?画儿在墙上画着呢。

b. ?画儿画在墙上呢。

(22) a. ?字在桌子上刻着呢。

b. ?字刻在桌子上呢。

(23) a. 字在黑板上写着呢。³

[字が黒板に書いてある]

b. ?字写在黑板上呢。

(24) a. *花儿(在衣服上)绣着(呢)《李临定 1986a : 90》

b. *花儿绣在衣服上呢。

(19b) と (21b) の成立の可否の差異は V の意味によってもたらされているといえる。③類の V を用いた場合、通常存在を表すのには“L+V 着+NP”という形式を用いることになる (李临定 1986 b : 30 参照)。

(21) c. 墙上画着画儿。

[壁に絵が描いてある]

(22) c. 桌子上刻着字。

[机に字が刻んである]

(23) c. 黑板上写着字。

[黒板に字が書いてある]

(24) c. 衣服上绣着花儿。

[服に花が刺繍してある]

しかし上記 (21b) ~ (24b) で不成立だった“V+在+L”形式で表された例についても文末の“呢”を“了”とすることにより、文は問題なく成立するようになる。

(21) d. 画儿画在墙上了。

[絵が壁に描いてある]

- (22) d. 字刻在桌子上了。

[字が机に刻んである]

- (23) d. 字写在黑板上了。

[字が黒板に書いてある]

- (24) d. 花儿绣在衣服上了。

[花が服に刺繍してある]

すなわち、文末の語気詞“了”は新たな事態の出現という観点から、結果の状態を捉えたものだといえる。

4. 4. “养、煮、烤 …” 類 (④類)

④類における V も、③類同様にモノの移動を伴ってはいない⁴。従って [一方向性] であるが故に、L は“原点” (動作が発生する場所) となっている。そしてこの④類では、料理方法を表す動詞が多くみられる。これらを (上記第 2. 3 節で挙げた“把肉煮在锅里”の例も含めて) “V+在+L”の形で使うことに抵抗を示すインフォーマントは少なくないものの、実例は数多く存在する。

- (25) 晚上把肉煮在锅里,想给怀孕的妻子补补身子。

[夜には肉を鍋で煮て、妊娠中の妻に体力をつけさせてやりたい]

(インターネットでの検索例)

- (26) 我们把鳝鱼焖在锅里,然后出去玩,忘了熄火。

[私たちは鍋にふたをして田ウナギを長時間煮たまま遊びに行き、火を消すのを忘れていた] (インターネットでの検索例)

④類の動詞は持続的なものであり、その行為が行われている間、O は L に存在している。そして O を主体としたとき、この状況を静態的なものとして捉えることができる。

- (27) “鱼煎在锅里,所有的调料都放了,远远地能闻到烧鱼的味。~”

[「魚は鍋の中で焼いている。あらゆる調味料を入れた。遠くから魚の焼けるにおいがする」] (インターネットでの検索例)

5. まとめ

以上、各動詞の有する「付着」という意味特徴の“在+L+V” “V+在+L” 両形式における統語的反映についてみた。そして「付着」を動的・静態的側

面から捉え、前者は S の行為を叙述した S・O の L への移動の過程を表したものであり、後者は S・O の L における存在を叙述したものであることを述べた。

注釈

- 1 “你在椅子上坐！”は成立するが、これは“坐”が“躺、趴”などと異なり、“你坐吧！”のように単独で命令文となれることによるものである。

*你躺吧。 — 你躺下吧。《荒川 1980 : 22》

[君横になりなさい]

- 2 両形式の意味の相違は荒川 2000 : 83 より。

- 3 (23a) の例文についてはほとんどのインフォーマントが成立可としたが、同様のタイプの例が李臨定 1986a : 90 では不適切とされている。

?字(在墙上)写着(呢) — 墙上写着字 《李臨定 1986a : 90》

[壁に字が書いてある]

(23a) では“字”と“黑板”という近接性が文の成立に影響していると考えられる。

- 4 “握、捏”などを用いた場合には、L が②類同様身体部位であることもあって、O の L への存在は、主体による持続的な行為として捉えることができる。この場合にも、やはり S が主語となった“在+L+V”における“在”は通常用いられない。

把铅笔握在手里 — (?在)手里捏着铅笔

[鉛筆を手に握る]

主要参考文献

- 荒川清秀 1980. 「中国語の状態動詞」, 『愛知大学文学論叢』第 65 輯, 愛知大学文学会。
- 荒川清秀 1981. 「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」, 『愛知大学文学論叢』第 67 輯。
- 荒川清秀 2000. 「“V 在~”と“在~V”のちがいは?」, 『中国語教室 Q&A101』相原茂ほか, 大修館書店, 81-83 頁。
- 丸尾誠 2004. 博士学位論文「現代中国語の空間移動表現に関する研究」名古屋大学大学院国際言語文化研究科 (未刊行)。
- 中川正之 1990. 「中国語と日本語 — 場所表現をめぐって —」, 『講座 日本語と日本語教育』12, 明治書院。
- 李臨定 1986a. 《现代汉语句型》, 商务印书馆。
- 李臨定 1986b. 〈静态句〉, 《汉语研究》第一輯, 南开大学出版社。
- 朱德熙 1990. 〈在黑板上写字及相关句式(修改稿)〉, 《语法丛稿》, 上海教育出版社。